

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	249	4年	前期	看護学科	必修	総合実習 Integrated Clinical Nursing Practice	90	2
担当教員								
看護学科全教員（基礎教								
関連するDPキーワード（看護学科）								
<input type="radio"/>	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
1) 地域包括ケアシステムのもと、自助・互助・共助・公助を活かして暮らし、療養する複雑多様な対象を包括的に理解するとともに、地域における多職種・多機関間連携の実際を学び、地域における看護者の役割を果たすための実践能力を修得する。								
2) 個々の課題達成に向けた実習計画の遂行、振り返りを通じて自己の看護観を深め、専門職として主体的に学ぶ態度を修得する。								
到達目標（授業目標）								
1. 地域包括ケアシステムを構成する多職種・多機関間および看護者間の連携について理解できる。								
2. 自ら見出した課題の達成に向けて主体的に行動することができる。								
3. 体験からの学びを主体的に振り返り、統合・共有・発展することができる。								

授業計画（項目・内容と方法・担当者）										
授業概要	<p>1. ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月のガイダンス期間中に、実習先となる施設・病棟の概要および実施可能な実習内容の説明を受け、希望調査票を提出する。 ・実習先は、可能な限り希望調査を参考に配置を決定する（必ずしも希望の実習先とはならないことがある） ・実習先は、決定次第E-studyにて周知する。 <p>2. 臨地実習</p> <p>看護アセスメントⅢでの学習と、立案した実習計画に基づいて各実習施設および学内での実習、体験交換会を行う。</p> <p>1) 実習期間 7月3日（月）～7月28日（金）のうちの10日間 8：30～16：30 ※10日間には学内実習日を含み、7月27日（木）・28日（金）は体験交換会の準備および実施日とする。</p> <p>2) 実習時間 原則として8：30～16：30 ※実習内容により、担当教員および実習指導者の許可を得て、最長19：00までの延長を認める（例：手術直後の看護や準夜勤務帯に面会がある家族への退院指導等）</p> <p>3) 実習場所 実習要綱に記載する。</p> <p>3) 実習の展開 実習要綱に記載された実習目標の達成に向けて、担当教員、臨地実習指導者の助言のもと、各自が実習計画を立案する。</p> <p>4) 実習で得た学びの統合と共有（体験交換会） 個別の学びを実習グループ内で共有・統合し、LMS（Learning Management System）を用いて全体に向けて発表する。方法の詳細は、体験交換会実施要領に記載する。</p>									
	成績評価方法及び基準									
	実習目標の達成度は、評価表を用いた自己評価をもとに、担当教員が評価する。評価表の得点配分は、40%を共通の評価項目（実習への取り組み姿勢、体験交換会への参加状況、「体験交換会からの学び」のレポート内容）、60%を地域包括ケアシステムの理解および自己課題の達成を評価項目とする。トータル60点以上を合格とする。									
	教科書	各領域の教科書を使用する								
参考図書等	各領域の参考書および図書館の蔵書を使用する									
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
各担当教員と相談の上、実習目標の達成に必要な基礎的知識・看護技術を確認し、主体的に学習する。										
関連科目										
前科目	242	看護アセスメントⅢ		これまでに履修した						
後科目	248	看護研究								
実務家教員										
看護師（医療機関）	看護学科全教員（基									
保健師（職域保健）	看護学科全教員（基									
保健師（行政機関）	看護学科全教員（基									
助産師（医療機関）	看護学科全教員（基									
備考	学生間、学生と担当教員及び臨地実習指導者との協同、実習目標の達成に向けた主体的な学習姿勢を重視する。									